國學院大學学術情報リポジトリ

中国青海省の漢民族の婚礼と葬礼：西寧市周辺の農村部の事例から

メタデータ	言語:
	出版者:
	公開日: 2024-02-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 李, 生智
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000061

中国青海省の漢民族の婚礼と葬礼
――西寧市周辺の農村部の事例から――

Weddings and Funerals of the Han Chinese in Qinghai, China:
A Case Study in a Rural Area around Xining

李　生　智

キーワード：青海省の漢民族　人生儀礼　婚礼　葬礼　歴史的変遷
关键词：青海汉族　人生礼仪　婚礼　葬礼　历史变迁

要旨

本稿では青海省の漢民族が居住する農村社会に伝承される生儀礼の婚礼（婚姻儀礼）と葬礼（葬送儀礼）を比較しつつ、現代社会における伝承と変化、親族関係者の役割分担について検討した。

従来の婚礼と葬礼は家族及び宗族が中心となり、葬礼では村人の喪主も重要な役割を果たす。こうした婚礼と葬礼の慣習は、現在も省都・西寧市近郊の農村部において継承されている。実地調査に基づく婚礼と葬礼の実態をふまえて、両者の特徴から青海省の農村部における漢民族の社会伝承の特徴を明らかとする。

中国は1978年から40年上続く改革開放政策によって急速な経済発展を遂げてきた。こうした政策は、経済・産業的な側面だけでなく、各地域の人々の生活と民俗にも大きな影響を受けてき。本稿は、青海省農村部の婚礼と葬礼に注目し、次の点を明らかにした。

（1）現在、農村部に伝承されている漢民族の婚礼と葬礼の実態が確認できた。
（2）婚礼と葬礼の関与者とそれぞれが担う役割分担を分析してみた。
（3）1950年代以降の婚礼と葬礼の歴史的な変遷をみてきた。

摘要

本文将对青海省汉族村落中所传承的婚礼（婚姻礼仪）和葬礼（丧葬礼仪）的仪式内容进行比较，对婚礼和葬礼等人生礼仪在现代社会中的传承和变化，以及宗亲和外亲在参加仪式时所承担工作的意义进行探讨。

青海省的汉族世代所传承的婚礼和葬礼，都是以家庭成员和宗族成员为中心进行。然而在葬礼中，共同地域的村民也承担着非常重要的责任。这种婚礼和葬礼的的习俗，在青海省西宁市周边的农村地区传承了下来。本文基于实地调查，从当地汉族举办的婚礼和葬礼的实际情况出发，将重点探讨青海农村地区汉族社会的传承特点。

自1978年以来，中国通过改革开放政策实现了持续四十多年经济的高速发展。这

些政策，不仅对经济和工业方面产生了巨大影响，而且对每个地区人民的生活和民俗也产生了巨大影响。本文着眼于青海省农村地区的婚礼和葬礼，从而得出下述几点结论。

(1)确认了当下汉族村庄中所传承的婚礼盒葬礼的真实情况。

(2)分析了婚礼和葬礼中的参与者各自承担的作用。

(3)概观了1950年代以来婚礼和葬礼的历史变迁。

はじめに

結婚と死亡は人々の一生における重要な節目であり、漢民族にとって古くから最も重要な人生儀礼は婚礼（婚姻儀礼）と葬礼（葬送儀礼）だと言える。これまでも複数の研究者によって、歴史文献、地方誌などの資料に基づく古代帝王・官僚士族などの上流階級の婚礼と葬礼について盛んに検討されてきた。こうした研究の対象は婚礼と葬礼の「制度」や儀式の「作法」と「手順」などが大半である。一方で、こうした儀礼は現代の一般民衆の婚礼や葬礼にもみられるものであるが、一般民衆の婚礼と葬礼の実態に注目し、そこに含まれる儀礼の歴史的な伝承性についてはほとんど研究されていない。

中国では21世紀に入って急速な経済発展を遂げて全国的に近代化が進み、各地域の社会や人々の生活スタイルに大きな影響を与えてきた。中国の各地における社会・生活変化の背景として、こうした外部の要因の他、一人子政策の実施と高等教育の普及を経て若者が農村部から流出していったという内部の要因がある。こうした内的・外的な要因の影響を受けて、従来から農村社会に継承されてきた婚礼・葬礼といった人生儀礼・祭祀などの儀礼が伝承されなくなっていく可能性がある。

本稿では、まだ青海省西寧市周辺の農村部における漢民族の婚礼と葬礼において、実際の習俗として伝承された具体的な調査事例から、青海省の漢民族の結婚と死亡に関する儀礼の担い手と歴史的な変遷を分析することを目的とする。

1．調査地の状況

青海省は中国西北部に位置し、甘粛省、四川省、チベット自治区、新疆ウイグル自治区の四省・自治区に隣接する省級行政区である。面積は約72万㎢であり、省の大部分は「世界の屋根」と呼ばれる青蔵高原（平均標高3000m）である。中国

の代表的な大河である長江と黄河はともに青海省を水源としており、青海省にはその源流となる川や国内最大の塩湖である青海湖がある。人口は約594万人（2022年）で、漢族のほか、チベット族、回族、土族、サラ族、モンゴル族など40を超える少数民族によって構成されている。

明・清時代（1638-1912）に青海省の東部は甘粛省と陝西省の管轄地になり、これを契機として大量の漢民族が青海省に移住した。1929年（中華民国18年）に、国民政府の命令によって青海省が成立した。1950年に中華人民共和国青海省人民政府が正式に成立し、青海省の省都が西寧市となった。

青海省の漢民族は主に省内のうち東部の西寧市を中心とした農耕地域に居住している。本稿で取りあげる調査地は西寧市の都市部周辺にある農村部の漢民族の居住地区である。

2．漢民族の婚礼

中国の歴史をみると、秦による全国統一以前から清末までの近代にかけては、「父母之命、媒酌之言」という「包辦婚姻（請負婚）」[(1)]が正当な婚姻の形とされてきた。こうした父母が取り決めた結婚形態に対して、1951年5月1日に公布施行した『中華人民共和国婚姻法』には「婚姻自由」という原則が規定された。それによって、父母が取り決める「包辦婚姻」が廃止され、現在は一定の恋愛期間を経た後にその相手と平等・自由に結婚するという「恋愛結婚」が一般な婚姻形態として受け入れられている。

しかし、1980年代に至っても、従来の「包辦婚姻（請負婚）」が継承されている。「恋愛結婚」が中国社会で定着するのは改革開放政策が進んだ後と一般的に認識されている。

青海省の漢民族が居住している農村部では、現在は「恋愛結婚」が一般的な婚姻形態である。2021年10月の調査で、当時80歳の話者景香蓮[(2)]は「今の若者は恋愛して結婚をしているが、私たちの時代にはあえて考えもしなかった」と述べている。

ところが、青海省の漢民族の中では「恋愛結婚」が主流の婚姻形態になった現在も、婚礼という婚姻関係を結ぶ儀式に従来の「包辦婚姻」のあり方が伝承されている。

青海省の漢民族における婚礼は、婚前・結婚式・婚後といった各段階の諸儀礼で構成されている。諸儀礼の概要は次のとおりである。

（1）婚前儀礼－結婚相手の探求と婚約の締結

かつて青海省の漢民族の中では、未婚の男女が私的に会うことは固く禁じられていた。故に、子が結婚適齢期になると早々に、親が「媒人」という結婚の仲立ちをする人に子の結婚相手探しを依頼する。

青海省の漢民族の方言では「媒人」を「月老（月下老人）」、「氷公大人」とも呼ぶ。現地に「天上無雲不下雨、地上無媒不成親（空に雲がなければ、雨は降らない。世の中に媒人がいなければ、婚姻はなり立たない）」ということわざがあるように、婚姻の成立において「媒人」は重要な役割を果たしており、父母と媒人が介在しない婚姻は社会からの承認を得られない。一般的に、結婚適齢期の男性の親（以下男性の親とする）が「媒人」に依頼することが多い。依頼を受けた「媒人」は、依頼者の家の家柄と経済力、社会的地位に見合った結婚相手を探して紹介する。媒人の紹介で男女の親が対面してから結婚の相談を行う。相談で理想的な結果が出ると、様々な儀礼を経て婚約を締結する。そのため、結婚するまでは当事者の男女は互いのことを全く知らない場合が一般的である。

ここでは、青海省の漢民族の結婚適齢期の男女の結婚相手探しから婚約を締結するまでの過程を紹介する。

【啓媒】息子が結婚適齢期になると、親が媒人のところに息子の結婚相手を探す依頼をしに行く。この「媒人」への依頼を「啓媒」という。

「啓媒」の際に男性の親は、自家の経済状況や息子の生年月日などを媒人に伝える。結婚相手については、意中の結婚相手がいる場合といない場合がある。意中の結婚相手がいる場合は、媒人は直接その家に男性の親の意思を伝える。意中の結婚相手がいない場合は、媒人のネットワークの中で依頼者の条件に適する結婚相手を探す。

【説媒】依頼を受けた媒人は、依頼者の意中の結婚相手、あるいは依頼者の家の条件に適した結婚適齢期の女性(以下、女性と書く)がいる家に結婚の仲立ちをしにいく。この媒人が結婚の仲立ちをする儀礼を「説媒」という。

媒人は依頼者の家庭状況や息子の人柄と生年月日などの情報を女性の親に伝え、縁談に対する意向を確認する。女性の親に縁談の意向が確認されると、媒人

が女性の干支と「八字（生年月日と出生時間）」を女性の親の意向とともに依頼者へ伝える。男性と女性の親は媒人からもらった男女の干支と「八字」を陰陽先生[3]に占ってもらい、相性が相克していないかを確認する。さらに、双方は媒人とは別の人に頼み、相手とその家庭状況(成員の構成・経済力・家柄・評判・犯罪履歴の有無)について問い合わせる。女性側は男性の母親の実家の兄弟の状況まで問い合わせる。

【提親】男女双方の干支と「八字」が相克しておらず、相手の家の状況について双方の親は不満がなければ、媒人は男性側の父母を連れて女性側の家に縁談を申し入れる。男性側は男性の親、男性の父の兄弟、男性の母の兄弟が女性側の家に向かう。男性の父母が女性の父母に結婚の話を正式に提示する。この縁談の儀礼を「提親」という。「提親」の儀礼は、媒人と結婚当事者の双方の父母のほか、その結婚当事者の父母の兄弟などの親戚の前で行われる。この時に女性側は男性側の現状が十分に把握できていないという理由で男性側の結婚縁談に明確な答えを示さないが、実際は「説媒」の時点で男性側の状況を把握しているので、これは形式的なものである。そして、男性の父母は女性の父母と親戚を自宅に招待する。

【浪家】女性の父母・親戚たちが招待を受け、男性の家を実際に訪れて状況を判断する儀礼を「浪家」という。男性の父母は自宅を綺麗に装飾し、豪華な食事を用意する。女性側は、男性の家族状況と居住環境などから男性側の経済状況を判断する。女性側は男性の家庭状況について、不満がなければ男性側の結婚縁談に肯定的な返答をする。

【自願】男女双方の父母が婚姻を決定し、当事者の男女を対面させる。媒人は男性を連れて女性の家を訪れて男女当事者が顔を合わせ、贈り物を交換する。この儀礼を「自願」という。

男性はブレスレット（腕輪）などのアクセサリーとお金を用意して女性に贈る。女性の贈り物は中敷き（鞋塾）[4]や枕カバーなどの刺繍品である。

なお、1950年代以前はこのような儀礼はなかったと話者景香蓮が述べている。これは、それ以前の時代には婚姻当日まで男女は会うことができなかったということである。前述の婚姻法の公布と実施によって恋愛結婚が奨励されたが、農村では包辦婚姻が行われており、その折衷策として恋愛結婚的な包辦婚姻の儀礼に取り入れて「自願」の儀式が1950年代以降に行われるようになったと考えられる。

【定婚】男性側が陰陽先生に縁起の良い日を占ってもらい、その日に女性側の家に婚約の締結に行くことを「定婚」という。当日は男女双方の当事者、当事者の父母、双方の血縁の近い親族が参加する。男性側は、ナツメ（棗）、酒、茶、氷砂糖、羊・豚肉などの贈り物を準備する。当日は女性の父母は男性の父母に「彩礼」という結納金を要求する。この「彩礼」は礼金[5]・三金（金指輪・金首輪・金腕輪）・衣装などで構成されている。男女の双方が「彩礼」の内容について議論し、双方が納得した後に婚約を締結する。

【送彩礼】男性の父母は「彩礼」を用意し、媒人と近い親戚と一緒に女性の家まで送る儀礼を「送彩礼」という。女性の父母も近い親戚が集め「彩礼」を検収する。女性の父母が「彩礼」をもらい、娘の「嫁妝」を用意しはじめる。「嫁妝」は自分の娘のために用意する持参金や「花嫁入り道具」のことである。

【討婚】男性の父は陰陽先生に結婚の日を占ってもらい、媒人と一緒にその期日を女性の家に通知することを「討婚」と呼ぶ。結婚の期日が決めると男女の双方側が結婚式の準備を行う。各自の一族の人々に情報を伝え、「東家」という婚礼を運営する組織の構成を依頼する。

（2）結婚式－娘を嫁に出す生家と花嫁をめとる婚家

結婚式は、娘を嫁に出す生家での儀礼と花嫁をめとる婚家での儀礼がある。双方の自宅では多くの儀礼が行われる。簡潔にいうと、花嫁の生家では宗族と親戚と村人のお祝いをもらい、娘を婚家まで送る準備を行う。婚家は花嫁の生家がお祝いの儀礼を行なった夜に花嫁を迎えに行き、翌日に婚家でお祝い儀礼を行う。

【添箱】結婚式の前日に女性側の宗族（党家）・親戚と村落の人々が贈り物を用意し、女性の家で祝う儀礼を行う。お祝いに来る親戚が用意した贈り物は女性の「嫁妝」を入れている箱に添付するため、これを「添箱」という。この日の前から、女性の父母は宗族（党家）と親戚の人々に男性側の家で行う結婚式へ赴くように依頼する。さらに宗族・親戚の中から六人あるいは八人を依頼し「送親隊伍」を組む。

「送親隊伍」は花嫁の父母を代表して花嫁を連れて安全に婚家まで送る人々である。「送親隊伍」の主体は一名の男性が担う「送親爺爺」と一名の女性が担う「送親奶奶」と、4人あるいは6人のサポート役の合計6人あるいは8人のメンバーで構成されている。「送親隊伍」は花嫁を安全に婚家まで送ることを主たる使命と

されており、送親隊伍のメンバーは女性側の身内の人か、親しい関係の人を選ぶ。そして、「送親爺爺」と「送親奶奶」はの花嫁の生家の権威と面目を象徴しているため、顔立ちが端正であることを要求される。さらに、夫婦生活が円満、子孫繁栄、言葉遣いが丁寧、円滑に問題などを解決する能力を要求される。「送親爺爺」と「送親奶奶」は夫婦である場合が多い。

【娶親】花嫁を生家から婚家まで迎え入れる儀礼を「娶親」という。花嫁の生家に「添箱」を行なった日の夜に、婚家は「娶親隊伍」を組んで花嫁の生家に花嫁を娶りに行く。この「娶親隊伍」も前述の「送親隊伍」と同じく、主たる役割を担う一名の男性の「娶親爺爺」と一名の女性の「娶親奶奶」、4人あるいは6人のサポート役の合計6人あるいは8人で構成されている。「娶親隊伍」のメンバーが選ばれる条件も「送親隊伍」と同じである。婚家の「娶親隊伍」と生家「送親隊伍」の成員には、花嫁の干支と相克する人、離婚した経験がある人などは絶対的に編入しない。

「娶親隊伍」が花嫁の生家に到着する時間と生家から花嫁を連れて出発する時間は、陰陽先生の占いで厳格に決められている。一般的に到着する時間は午後11時から12時までの間とされている。さらに、「娶親隊伍」は花嫁の生家に「酒貼（婚礼への招待状）」、花嫁の衣装と化粧品を持っていく。

「娶親隊伍」が花嫁の生家に到着し、時間になったら爆竹と花火などを鳴らす。そして、生家の親戚が中から錠をかけた戸を開けるよう外から声をかける。生家の人々が「娶親隊伍」に「深夜なのに何故にこちらのドアにノックする」と問い、「娶親隊伍」は門の中に一つずつ「紅包」[6]を入れ、「遠くから美しい花を移しにきた」と答える。こうした問答を行い、生家は「娶親隊伍」を家の中に迎え入れる。「娶親隊伍」は花嫁衣装と化粧品などを花嫁に渡す。花嫁衣装は赤い色で作り、花嫁が最も内側に着ている衣装（下着）から最も外側に着用するコートとをアクセサリーなどをセットにしている。

【下酒貼】花嫁の父母が「娶親隊伍」から「酒貼」という女性側の関係者を婚家まで招待する招待状を受け取ることを「下酒貼」という。これを受け取ると、花嫁は生家の服を全て脱ぎ、婚家が用意した花嫁衣装に着替え、化粧をする。「娶親隊伍」と「送親隊伍」は食事をし、規定した出発時間を待つ。

【出門】時間になると、花嫁の父母は別の部屋にこもり、花婿と花嫁は花嫁の生家の中堂[7]で祀っている神・祖先に告別の儀礼を行う。その後、花婿が花嫁を

車の中まで背負って運ぶ。これは、花嫁の足に生家の土がつくのを防ぐためで、何物も生家のものを婚家に持ち出さないという意味で行われるとされる。花嫁は中堂から出る際、生家で使っている箸の束を後ろに投げる。これは、これから生家で食事をしないという絶縁の儀礼だと考えられる。花婿と花嫁が乗る車には、「圧轎娃」という花嫁と干支の相性がいい児童を乗せる。この子どもは男児（10歳前後）で、花嫁をあらゆる災いから守る役割があるとされる。「轎」は花を運ぶ「駕籠」、「圧」は「鎮座する」という意味である。

【迎親】夜明けごろ、「娶親隊伍」と「送親隊伍」が花嫁を連れて家に到着する。婚家で花嫁を待っている人々は松の薪の上に塩を撒いて、火で薪を燃やす。さらに爆竹と花火を鳴らす。婚家に到着した花嫁と「圧橋娃」は降車せず、婚家の人々が「紅包」を渡して家に入るように懇願するまで車の中にいる。花嫁と「圧橋娃」に一定程度の「紅包」を与えると、「圧橋娃」が自動車の扉を開け、花嫁が車の中から降車する。花嫁は燃やしている松の薪の上を跨ぐ。この一連の儀礼を「迎親」という。

【拝天地】「娶親隊伍」は花婿と花嫁を婚家の中堂まで案内し、進行役の指示で天地・父母・相手にお辞儀をする。まず天地に向けて、次に花婿の両親に向けて、そして夫妻の間でお辞儀をする。この「拝天地」の儀礼によって、花婿と花嫁が夫婦になり、進行役の案内で新郎新婦の部屋に案内する。

【禳床】新郎新婦が自分の部屋に到着したら、オンドル・ベッドの中央に座る。オンドル・ベッドの上には落花生、ナツメ（棗）、飴などが散らされている。婚家の人は、宗族・親戚・村人の中から徳望があり、円満な家庭を持つ人に依頼して、「禳床」の儀礼を行う。「禳床」の人は、両手に饅頭（マントウ）と落花生などの食べ物を入れた容器を持ち、呪いの言葉を唱える[(8)]。これは、災いを払うほか、出産・長寿・幸運などの祝福する意味がある。

【棗茶】禳床の儀礼が終わると、関係者の全員が新郎新婦の部屋から出る。そして、婚家は「娶親隊伍」と「送親隊伍」の全員にナツメで作った甘い「棗茶」を入れる。その後、東家は全員に宴会料理を提供する。棗茶を飲んだ後の朝に、新郎と新郎の父が一族の祖墳に参り、祖先に結婚の報告をする。

【邀請娘家人】墓参り後、新郎は酒などの礼品（贈り物）を持ち、花嫁が安全に婚家に到着していることを花嫁の生家の人々（以下は娘家人とする。娘家人とは、嫁の父母と兄弟を含める生家の一族のこと）に報告し、当日の婚礼への参加

の案内をする。婚家の東家がドアのところに「接卓」という花嫁の娘家人を迎えるテーブルを用意する。花嫁の娘家人たちが婚家に入る最初からお酒で歓待するという意味である。

【擺針線】花嫁の娘家人婚家には入ると、まずは甘い「棗茶」を飲ませる。その後は「嫁妝」などを婚家の庭の中央に置く。花嫁の「嫁妝」を婚礼に参加しに来る親戚と村人に見せ、その中刺繍した物には刺繍品（靴の中敷きや枕カバーなど）を展示し、花嫁の縫い物の技術を披露する。

【冠帯と抬針線】花嫁の縫い物の技術を披露した後、娘家人は花婿に用意した靴･服などを着せる。この花婿に新しい服を着せる儀礼を「冠帯」という。この儀礼は、新郎の出世を期待していることが意味している。また、娘家人は花嫁の「嫁妝」から舅姑・花婿の兄弟姉妹などの親族に刺繍品を渡す。この儀礼は「抬針線」という。

【謝媒】男女双方の親が謝礼（金銭）と衣装など用意し、媒人に渡す。婚姻の成立を感謝する。

【宴席】前述の儀礼を行った後で、婚家は婚礼に参加する人に食事を提供する。新郎新婦は酒器と酒を持ち、参加者全員に酒を勧める。

【上馬三杯酒 送娘家人】食事をした後、娘家人は婚家を出る。婚家の人は酒と酒器を持って娘家人に着いて行き、乗り物（バスなど）に乗る前に娘家人に三杯の酒を振る舞う。酒を飲ませた後、娘家人は乗り物に乗り、新郎新婦と婚家の人はそれを見送る。この三杯の酒を「上馬三杯酒」といい、この娘家人を送別することは「送娘家人」という。「上馬」というのは、かつては馬が移動手段であったためであり、現在は前述のようにバスなどの乗り物の前で三杯の酒を飲む。

【謝東】結婚式の運営や食事などを支度するのが、婚家の一族の人々で構成した「東家」という組織である。娘家人が帰宅した後、婚家の人は東家の人への感謝の印として、枕カバーなどを贈り、食事を振舞う。このように、「東家」に感謝する儀礼を「謝東」という。そして、東家の人々は新郎の父母と父の兄弟、その配偶者たちに対して無礼講を行う。たとえば、顔にいたずら書きをしたり、扮装させるなどして面白おかしく踊らせる。新郎の父親の身体のどこかに「火爺（性欲を意味する言葉）」と書く。これは、この儀礼の終了後は父親と嫁の関係を持つべきであるということを戒める意味があるとされる。

【鬧洞房】婚礼に関与した宗族、親戚、村人は新郎新婦の部屋に行って、ちょ

っかいを出すなどして騒ぐ。たとえば、二人の間に食べ物を吊るし、いきなり引き上げることで二人に口づけさせるなど、一見ふざけた行為に見えるが、二人の仲を取り持つ目的もある。

【下厨房】結婚式の翌日は、新郎新婦は一族の人々に棗茶を献呈する。新婦は姑と他の一族の女性と共に初めて厨房に入り、料理を作る。ここでは餃子を作り、一族を集めて全員に振舞う。これは、厨房での料理をする役割を姑から嫁に分配するという意味がある。

（3）結婚後の儀礼－姻戚の確認と花嫁の身分転換

【認門】結婚式の三日後、新郎新婦は新郎の父母の指示で、まずは、花嫁の実家に向かう。そして、新郎新婦両方の血縁関係の近い親戚の家を廻る。近い親戚の中、特に新郎新婦の母親の兄弟の家、新郎新婦の従兄弟などに訪れることが多い。こうした新郎新婦が親戚の家を訪問することによって、姻戚関係が社会的に承認される。

【回娘家】新郎の母親と新婦の母親が相談して日取りを決め、新婦が実家に帰省する。一般的には、結婚の１週間後に新郎が新婦を実家に連れて行き、新郎は泊まらずに帰る。新婦は７日間実家に滞在する。この新婦は結婚後に初めての帰省する行為は、婚出した娘は実家の一員から親戚になったという身分の転換を示している。

以上は話者景香蓮の話と筆者が2021年に調査した事例[(9)]の内容を整理したものである。こうした婚礼の多くの儀礼は現在の青海省の漢民族の婚礼において伝承されている。

３．漢民族の葬礼

青海省の漢民族の葬礼の実態についてはすでに別稿にて詳報したため[(10)]、ここでは葬礼の流れを簡潔に述べるに留める。葬礼は、生前の準備（祝寿）、臨終の対応、死後の祭奠、遺体の埋葬、祭祀供養との五段階に区分できる。

【祝寿】親に60歳から10年毎に「祝寿」が執り行われ、そこで息子によって棺材（棺）が、娘によって寿衣（死装束）が用意されるように、葬礼の準備は生前から始まる。

【臨終】親が危篤になると、息子は同地域での人望が厚く、葬儀の経験が豊富である荘員に喪主[11]と呼ばれる葬儀全般の統括役を依頼し、存命のうちに死者に寿衣を着せて最期を看取る。

【祭奠】死亡から埋葬までの祭奠では、死を知らされた党家が葬礼の運営組織である東家を結成し、喪主の指示のもと、葬礼の準備進行の全般を担う。喪主と東家で霊堂に死者の遺体を移し、陰陽先生、礼儀先生、チベット仏教の僧侶といった宗教者を喪家の意思で招請する。このうち陰陽先生が葬礼の期間を卜占して決める。喪主は礼儀先生が書いた訃告（死の知らせ）と請帖（招待状）を持って親戚に知らせ、東家の人々は祖墳に穴を掘る、料理の手配をするなどの準備にあたる。弔問客が来る前日には、葬礼の参加者は各々の孝を身に付け[12]、陰陽先生や礼儀先生の指示に従って死者や祖先の霊を家に迎える。霊堂では、家族と死者の婚出した娘が安置された死者の両側に藁を敷き、正座して喪に服す。

弔問の日には、党家、親戚、荘員が集まって死を悼みながら飲食をする。弔問で訪れた親戚は霊堂の前で跪礼をし、息子の妻や婚出した女性は跪いて大声で泣く。骨主[13]は、家族から死の前後の様子などを聞いて遺体を検分し、死者の埋葬規模を盛大にするよう要求する。夕方に、死者や祖先の霊を家から送り出す。

【埋葬】埋葬は夜明け前に行う。未明、喪主や家族や党家や埋葬作業にあたる荘員らが、死者を霊堂から運び出して棺材に納める。棺材は前日に後継者ら（長男など）が拭き清め、婚出した娘とその婿が内部を飾り付けてある。陰陽先生による法事の後、後継者が頭側、その他の人は棺材の周囲に控えて墳墓まで運び出す。その間に、後継者の妻や婚出した娘らは霊堂に敷いていた藁を村境に運び、火を焚く。荘員は、各家の前で火を焚く。祖墳の穴に棺材をおろして、まず後継者が3回土をかけ、後は党家と荘員が速やかに棺材を埋める。

【祭祀】埋葬後3日目には、家族・党家・親戚が墓参りをして、死者を埋葬した土饅頭を整える。その際に、後継者が墳墓の前に設けたオンドルに火を灯し、党家と親戚は着用していた孝を燃やす。49日までは、7日毎に陰陽先生に読経してもらう。この時、家族は必ず、党家と親戚は任意で参加する。毎日、後継者は墓参りとオンドルに火を灯し、100日目に着用していた孝を燃やして終える。1年後には、党家の手伝いのもと後継者が主体となって墓碑を建てる。

以上、青海省の漢民族において理想的な死を迎えた人の葬礼の一連の流れについて、生前から進められる死の準備と、死後の葬礼と埋葬、そして祭祀にいたる

までの概要を通覧した。

4．婚礼と葬礼の関与者と担い手

前章には、青海省の漢民族の婚礼と葬礼のプロセスのみてきた。ここでは、婚礼と葬礼に関与した人々と各儀礼の担い手を見てみる。

（1）五種類の関与者

筆者の拙稿「中国青海省の漢民族の葬礼と担い手」(14) に示したように、青海省の漢民族は日常の生産労働と祭祀儀礼には、関与者を血縁・婚姻・地縁・雇用などの関係性で大別にＡ家族、Ｂ党家（宗族）、Ｃ親戚、Ｄ荘員（村人）、Ｅ職能者の五者と分けられる。この五者の詳細を表１のようにまとめた。

青海省の漢民族の婚礼と葬礼には、この五種類の関与者が関わっている。この５種類の関与者について、簡潔に紹介する。

Ａ家族は、当事者の親、息子とその配偶者と男性子孫(その配偶者含む)と未婚の女性子孫のことである。いわゆる親子関係の肉親である。

Ｂ党家は、血縁党家と結盟党家の区別がある。血縁党家は共通の祖先を持つ父系出自集団の一族のことである。結盟党家は、血縁党家の規模の小さな一族は同村落のほかの宗族の人を選び、一族とみなす党家の関係を結盟し、日常生活や労

表１　葬礼における五種類の関与者

関与者		関係性	代表人物
家族		親子関係	親、息子とその配偶者、孫とその配偶者、未婚の娘と孫娘
党家	血縁党家	血縁関係	兄弟とその家族、甥とその家族
	結盟党家	地縁関係	同村に党家関係を結縁した人々
親戚	上位親戚	姻戚関係	男性の配偶者の実家の人々
	平等親戚	姻戚関係	男性の配偶者の実家のうち他氏一族へ嫁いだ姉妹とその家族
	下位親戚	姻戚関係	一族（血縁党家）から婚出した女性とその嫁ぎ先
荘員		地縁関係	村人
職能者	技能的職能者	雇用関係	唢呐匠、媒人、儀式に料理をする料理人
	宗教的職能者	雇用関係	道教の陰陽先生、儒教の礼儀先生、チベット仏教の僧侶（アカ）

働の場で相互扶助の関係のことである。

C親戚は、嫁の授受関係（女性の婚出婚入関係）によって「上位親戚」「平等親戚」「下位親戚」の三種類に分かれる。上位親戚は、一族の男性子孫の配偶者の実家一族（娘家）である。平等親戚は、一族の男性子孫の配偶者の実家一族（娘家）のうち他氏一族へ嫁いだ姉妹とその家族である。下位親戚は、一族から嫁いだ人とその家族である。

D荘員は、同じ村に住む人である。

E職能者は金銭で雇用した人々であり、技能的職能者と宗教的職能者の区別がある。

この五者が婚礼と葬礼にはそれぞれの役割を分担し、儀式を進行させる。ここでは、この五者が婚礼と葬礼には具体的にどのような役割を分担しているのかを見てみる。

婚礼　この五者が青海省の漢民族の婚礼での役割は、それぞれ次のように整理できる。

【家族】結婚適齢期の男性の親が息子の結婚相手を媒人に依頼して探す。媒人の紹介で結婚適齢期の男女の親が婚約を締結し、婚礼を執り行われる。家族の親が婚礼を進行させる主要な担い手である。結婚相手の選定、婚約の締結、婚礼の執行には、親が主な経費の提供者である。

【党家】男女双方の伯父（父の兄）・叔父（父の弟）は、媒人が結婚相手を紹介したの後、その親とともに、結婚相手とその家族の状況を確認する。いわゆる、将来には一族の成員になる花嫁、あるいは一族の成員の女性を嫁にする花婿とそれぞれの家族の人柄・経済状況などを検分する。また、「添箱」と「結婚式」という男女双方の家に行われるお祝いの儀礼を運営するのが党家の成員で構成した「東家」である。その中、「東家」のリーダーとしての「大東」が婚礼の責任者として、儀礼の運営と客の対応を行う。

【親戚】男女双方の舅父（母方のオジ・母の兄弟）は「骨主」として、媒人が結婚相手を紹介したの後、その親とともに、結婚相手とその家族の状況を検分する。

【荘員】婚礼には荘員は結婚お祝いをする。

【職能者】媒人という結婚相手を探す職能者は男性の親が招請する。婚姻は媒人の紹介と双方の間に入って取り持つことで成立する。また、男女の干支と「八字」によって宗教的職能者の陰陽先生が双方の結婚の相性を占卜する。

葬礼　この五者が青海省の漢民族の葬礼での役割は、それぞれ次のように整理できる。

【家族】家族（息子とその配偶者）が生前の死者を扶養し、60歳以降になると死後用の葬具の棺桶を準備する。また、病中の際、家族（息子とその配偶者）が看病し、地域社会から喪主という葬礼の全般を統括する責任者を探す。死亡後、家族が死者の遺体を霊堂に安置し、葬礼のすべてを荘員の喪主と党家の東家に任せる。葬礼を行なう期間、家族は喪主の指示で多くの儀礼を参加するが、葬礼の進行に関する仕事は一切しない。

【党家】死者が死亡後、死者の家族は死者の死を速やかに党家に通知する。党家（一族の人々）が死者の死亡を受け、喪家に集まり、葬礼の規模などについて相談する。さらに、葬礼の実行組織としての「東家」を構成し、喪主の指示で葬礼（葬礼の準備から死者の埋葬まで）を立ち上げる。党家が構成した東家は葬礼の重要な労働力で、葬礼を実行する運営者である。

【親戚】まずは葬礼での地位が一番高い上位親戚である。上位親戚に死者の死を通知する際、喪主が「訃告」と「請帖」を持ち、自らに出かけていく。また、弔問に来る際、上位親戚のため迎え用の「接卓」を用意し、験孝の儀礼までは孝を着用せず、家の中の一番尊い席に座る。そして、上位親戚は葬礼での一番重要な役割は「骨主」として、「験孝」の儀礼を行なう。つまり、上位親戚は葬礼には喪家にとって一番重要な関与者である。平等親戚に死者の死亡を通知し、葬礼の参加を誘う。弔問にくる際、観衆として上位親戚と葬礼の正当性を判断する。下位親戚の娘は、生前の親には寿衣を用意する。また、死者死亡の通知を受け、速やかに弔問に来る。最も高額の香典を渡す。さらに、死者の家族と同様に棺桶の両側に跪き、様々な儀礼を家族と同様に関与する。

【荘員】荘員は同じ村落に生活する人々であり、葬礼の統括者として死者家族の代わりに葬礼を運営するので、喪家が荘員の葬儀経験豊富、品徳を評価された人を選択し、葬礼の全てを任せる。その後、喪主は喪家の意思を受け、その意思を従って葬礼を立ち上げる。また、験孝の儀礼には死者の責任者の骨主に対して、喪主は死者家族の生者を代表者である。喪主は骨主の死者に関する疑問を回答し、骨主と死者家族の関係を潤滑する役割がある。また埋葬する際、喪主は党家と荘員を指揮して、棺桶を墓地まで埋める。一方、葬礼の統括者の２名の喪主に対して、数多くの荘員が葬礼に関わる。まず、葬礼に弔問し、葬礼の弔問者の

7割が荘員である。弔問後、験孝の儀礼の様子を見る。また、死者を埋葬する際、荘員の青壮年の男性が主要な労働力である。つまり、荘員から選ばれた喪主は葬礼の最高統括者であり、葬礼の進展を把握し、喪家の利益の代表者である。また、喪主以外の荘員は葬礼の弔問や埋葬の主な関与者であり、上位親戚の骨主の「験孝」の儀礼を目撃し、平等親戚とともに葬礼の正当性を判断する。

【職能者】葬礼には、道教を象徴する陰陽先生、儒教を象徴する礼儀先生、チベット仏教の僧侶アカ、哨吶演奏者、料理人などの喪家と関わりがない人を招請する。宗教的職能者の各自作法は葬礼の重要な組み立て部分である。また、無償で労働を提供する党家と喪主に対して、職能者は喪家とは金銭が発生する雇用関係である。

以上により、婚礼と葬礼に関与した人々が死者との関係性より、どのような役割りを分担しているのかをみてきた。

（2）東家と党家と骨主

青海省の漢民族の婚礼と葬礼の運営に実務を担うのが党家の成員で構成した「東家」である。「東家」は婚礼と葬礼を運営の執行役で、無償で労働力を提供する。「東家」のリーダーとしての「大東」は「東家」の人々に役割分担を割り振られる。しかし、婚礼には、「大東」が責任者として儀礼を運営する。葬礼の運営は村落の人々から選ばれた「喪主」に最高の統括者をさせて運営する。葬礼での「大東」は「喪主」の補助役になる。

こうした親族関係者の党家で構成した東家が婚礼と葬礼には実務を担うことは、新郎新婦と死者を一族の一員として認めていると意味している。婚礼には、結婚適齢期男女の親とともに血縁関係の近い党家が、結婚相手とその家族の状況を検分する。葬礼には、死者の年齢・婚姻状況・後継者の有無・死因などの条件で死者の身分を検分する。検分の結果は、党家が「東家」として儀礼を行うかどうかに影響する。いわゆる、一族の成員として認められた当事者だけに、党家が「東家」を構成して儀礼を行う。

具体的の儀礼から党家による検分の内容を見てみる。

婚礼の結婚相手の探求の段階には、男性側の党家（花婿父の兄弟）が花嫁の人柄、見た目の良さ、性格、孝行などを検分する。女性側の党家（花嫁父の兄弟）が花婿の人柄、経済力、犯罪履歴の有無などを検分する。この党家による検分の

結果が婚姻の成立に多大な影響を与える。

また、葬礼にも党家が死者に対して検分を行う。死者が死亡後、家族は死者の死を速やかに党家の人々に通知し、葬礼の運営を要請する。党家は喪家に集まり、死者の条件を検分し、その身分に相応しい葬礼の規格を規定する。それは、青海省の漢民族は死者を「祖先」、「先人（死後宗族）」、「鬼」という３種類の死者[15]に区分している。この３種類の死者は身分によって、埋葬地、族譜への記名、祭祀などの状況がそれぞれに異なる。だが、この死者の身分を検分するのは党家である。

しかし、婚礼と葬礼で検分は党家だけではなく、骨主も行う。骨主は、人々の生命福祉の責任者であり、青海省の漢民族の人生儀礼と日常生活に重要な役割を分担している。骨主は母方の舅父（オジ）である。しかし、女性が結婚した後は骨主が実家の兄弟になる。女性が婚家で生まれた子供の骨主は自分の実家の兄弟である。骨主は婚礼には、党家と同様に結婚相手とその家族の状況を検分し、その検分の結果も婚姻の成立に多大な影響を与える。さらに、婚礼での男女双方が相手の状況を検分する際に相手の骨主の状況まで検分する。要するに骨主が重要な検分の対象である。

葬礼には、死者を埋葬の前日に必ずに「験孝」という儀礼を行う。「験孝」は骨主が死者の遺体と死因を検分し、死者の息子が親孝行であるかどうかを判断する儀礼である。この儀礼によって、骨主は党家が死者の身分対する検分を確認・承認する。

以上のように、青海省の漢民族の婚礼と葬礼は党家で構成した「東家」という組織で運営するということが確認できた。それは、当事者を一族の成員であるので、無償で労働力を提供して儀礼を執り行う。

父系社会の青海省の漢民族の中、日常生活・人生儀礼・祖先祭祀などが父系の党家の間が行う。しかし、その成員としての身分検分は党家のみならず、母方の骨主が深く関与してする。要するに、青海省の漢民族の葬礼と婚礼においては、父系の党家と母系の骨主が検分を行い、その身分はどちらの承認も必要である。父系の成員としての身分の検分に母系がかかわる理由について、家筋と血筋の関係性と考えられる。日常の生活、相続、祭祀などは家筋で継承されているのが、人生儀礼には家筋と血筋の対等関係である要素もあるといえる。それは、婚礼の結婚相手と葬礼の「験孝」での検分から表現されている。

5．婚礼と葬礼の歴史的変遷

前節には、青海省の漢民族の婚礼と葬礼のプロセスをみてきた。ここでは、1950年代以降からの婚礼と葬礼の歴史的な変遷について探求してみる。

（1）1950年代以降の婚礼

中国は1950年５月１日に公布・実施された『婚姻法』には、「一夫一妻」という婚姻制度を規定された。ここでは、青海省の農村部である西寧市湟中区李家山鎮Ｈ村・Ｌ氏一族の事例を通して、1950年以降、青海省の漢民族の婚礼はどのように変遷してきたのかを追跡してみる。

Ｌ氏一族はＨ村には最も人数が多い一族である。1950年以降、一族の男性に合計43名の花嫁を迎えいれた。一族の28名の女性を嫁に出した。合計71例の婚礼を行った。この71事例婚礼を①結婚相手の選択方法、②結婚式の場所、③媒人の使用可否、④婚慶業者の関与可否の４項目の内容について表２にまとめた。

1950年代から現在にわたって、青海省西寧市湟中区李家山鎮Ｈ村・Ｌ氏一族の71事例は従来の流れで婚礼を行う。Ｌ氏一族は1950年代から1960年代のベビーブームを経って、1970年代から1990年代の二十年間に結婚適齢者のピークを迎えた。その後、一人子政策の影響で、2000年代から結婚適齢者の人数が減少した。さらに、経済発展と高等教育の普及によって若者が農村から離れて都市部に移住した。さらに、考え方の転換と経済的の圧力で結婚年齢が以前と比べて高く

表２　青海省西寧市湟中区李家山鎮Ｈ村・Ｌ氏の婚礼の変遷

	結婚相手			合計事例数	結婚式の場所		儀礼での媒人の使用	婚慶業者の介入
	知人の紹介	媒人の紹介	恋愛		自宅	酒店（ホテル）に披露宴		
1950年代	2	4		6例	6	×	○	×
1960年代		5		5例	5	×	○	×
1970年代	2	7	1	10例	10	×	○	×
1980年代	5	8	3	16例	16	×	○	×
1990年代	9	5	3	20例	20	×	○	×
2000年代	4		2	6例	5	1	○	○
2010年代	1		4	5例	4	1	○	○
2020年代			3	3例	2	1	○	○

なった。

表2からみるように、婚姻仲介を職業としている媒人による結婚相手を探すという方法が1990年代までは主流である。2000年代から媒人による。親戚・上司などの知人（知り合い）の紹介による結婚相手を探すという方法が現在でも残っている。若い男女が恋愛を経って結婚に至るという方式は1970年代からはじめ、2020年代に主な方式になっている。しかし、すべての人は恋愛結婚できるというわけではない。そのため、知人による結婚相手を紹介するという方法が現在でも存在している。

また、結婚式の場所については、現在でも村落の自宅に行うのが一般的である。しかし、1990年代から花嫁を迎えた当日の披露宴は、酒店（ホテル）に行うというケースがある。L氏一族は自宅に行う婚礼には「婚慶業者」を使用してない。ところが、酒店（ホテル）に披露宴を行う際に「婚慶業者」の使用する。L氏一族の婚礼には見当たらないが、農村の自宅に婚礼を行う際、結婚式の当日「婚慶業者」を使用して、西洋式か中式の結婚典礼を行うケースがある。

2000年代以降、専門の媒人を使用し結婚相手を探すという事例が見当たれない。さらに、恋愛結婚という方式が主流になった。しかし、婚礼には、儀礼的に婚姻相手を紹介してくれた知人や、恋愛婚姻の場合は互いに知っている人に媒人の役を依頼する。

（2）葬礼の変化

青海省の漢民族の葬礼では、死者は華やかに送り出されて墳墓に埋葬され、埋葬後も毎年の忌日や年中行事などには祭祀が執り行われるなど大事に弔われる。

そのため、葬礼は婚礼のように激しい変化は特にはない。死者が死亡後、葬礼は必ずに自宅で行う。政府が主導し積極に全国範囲に推し広める「殯葬改革」の政策を実施された現在でも、青海省の漢民族は従来のあり方で葬礼を行い、死者の遺体を土葬する。

しかし、1980年代後半からは、「殯葬改革」の影響を受けて徐々に火葬が受容されるようになった。それは、未成年と横死になった死者の遺体を土葬という従来の葬法を使用せず、火葬して散骨という「殯葬改革」の受容状況受けた。

まとめ

婚礼と葬礼は人生にとっては最も重要な儀礼として、青海省の農村部に居住して漢民族は従来のやり方で伝承されている。本稿では、青海省の農村部の漢民族における婚礼と葬礼の実態を確認してきた。

婚礼と葬礼に関与者した人々は当事者との関係性で家族、党家、親戚、荘員、職能者と分類できる。このような血縁・婚姻・地縁・雇用で儀礼に関わった人々は、当事者との親疎関係でそれぞれの役割を分担している。その中、婚礼と葬礼は父系の党家で構成した東家で運営するが、その成員としての当事者の身分の検分には母系の骨主が深く関与している。こうしたことで青海省の漢民族の社会における父系と母系のあり方を軽く探索してみた。

青海省の漢民族の婚礼と葬礼は経済と政策の影響を受けている。「恋愛結婚」が主流の婚姻形態になった現在も、婚礼という婚姻関係を結ぶ儀礼に従来のあり方が伝承されている。儀式の内容や場所などが従来と大きく変わった部分がある。だが、変容しやすい婚礼に対して葬礼の変容が少ない。祖先となれる死者の葬礼の内容は固く従来のあり方を守られている。未成年と横死になった死者の葬礼は「殯葬改革」の影響を受けて徐々に火葬が受容されるようになった。

注

(1) 包辦婚姻(請負婚)とは、本人の意思とは関係なく、家族(父母)が家柄などで結婚の相手を選んで結婚させる婚姻形態である。「包辦婚姻」は「父母之命、媒酌之言」と言われ、父母の取り決めに従い、媒妁を立てることで成立するものと考えられている。

(2) 話者の景香蓮は1941年9月9日に生まれ、1956年に夫の李永範と結婚した。夫の間に四人の息子と二人の娘を生育した。

(3) 陰陽先生は道教から派生した民間宗教者で、「風水先生」、「老師傅」などとも呼ばれる。青海省では当地の農民が兼任することが多い。家族の継承が一般化している。陰陽先生は陰陽、風水の専門家であり、葬儀や結婚式の期日を占いと墓地、住宅の鑑定や人々の運命判断などを行なう。

(4) 鞋墊はかつて布靴を履いていた頃の名残といえる。刺繍を入れた中敷きは布靴の中に敷き、普段履きとした。

(5) 現在の彩礼は10万元前後である。

(6) 紅包はご祝儀やお年玉のことである。中国の旧正月、誕生日、結婚式などお祝い事があった際、良い願いを送る方法として使われる。

(7) 中堂は家の母屋の真ん中の部屋である。神様の神像や祖先の位牌などを祀るところである。

(8) 禳床の祝福の言葉：禳床、禳床、金玉満堂。一対新人歓歓喜喜入洞房；双双胡桃単棗儿、明

年养哈个尕宝儿；双双棗儿单核桃、养哈女儿繡荷包；左脚踏上白虎頭、七对驟子八对牛；右脚踏上白虎尾、七担谷子八担米；禳床、禳床、一禳、禳了个青龍床；二攘、攘了个龍鳳床；三禳、禳了个白虎不占床；四禳、禳了个状元郎；五禳、禳了个棒元郎；六禳、禳了个六儿郎；七禳、禳了个疼新娘、小两口的日子就像是十五的月亮；八禳、禳了个八福長寿；九禳、禳了个九子連登；十禳、禳了个幸福大満堂。胡桃棗儿的撒一把。圧了天煞圧地煞，圧了七十二大煞。叫新人向前来，一对元宝滚進来！我勧親朋好友出新房、新郎下来了把門頂上。

(9) 当事者の新郎は1988年4月14日に生まれた李生浩氏、新婦は1993年8月28日に生まれたの星海蓮氏である。2020年に知人の紹介で二人は恋愛関係を確立し、2021年9月に婚約を結締した。結婚式は2021年10月3日(農暦八月二十七)に新郎の自宅に執り行った。

(10) 拙稿「中国青海省の漢民族の葬礼と担い手」『東アジア文化研究（东亚文化研究）』第6号、2021

(11) 同じ村の全く血縁・婚姻関係がない他人に喪主の役を任せる。日本では死者の子どもなど血縁関係者が喪主を務めるが、表記は同じでも実態は異なる。

(12) 骨主は死者の葬礼で遺体を検分し、死者が暴力などを受けていないか、死者の子孫が親孝行であったかを判断する役である。骨主は、死者が女性の場合は者の実家の人が、男性の場合は死者の母の実家の人が務める。

(13) 青海省では喪服のことを「孝」と呼ぶ。葬礼に関与する人は死者の親疎によって、それぞれの喪服を着用する。

(14) 注の（11）と同じ。

(15) 拙稿「中国青海省の漢民族の葬礼にみる生前と死後の宗族―祖墳と族譜を中心に―」『伝承文化研究』第19号　二〇二二